

科目ナンバリング		G-HUM35 50000 LJ38									
授業科目名 <英訳>		東アジア文献論 A Philology of East Asia A				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 宮宅 潔			
配当 学年	修士	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
分野名		東アジア文化論									
[授業の概要・目的]											
近年中国古代史の研究に大きな影響を与えている新出史料、すなわち竹簡・木簡史料について概説する。出土地域ごとに発見史をたどりながら、主要な竹簡・木簡群を紹介し、それが歴史研究、特に制度史研究に与えたインパクトについて講義する。											
[到達目標]											
新出史料に関する知識を身につけ、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。											
[授業計画と内容]											
1. ガイダンス 2. 中国簡牘史料の発見史 3. 楚簡の概観 4. 秦簡の概観 5. 墓葬出土漢簡の概観 6. 辺境出土漢簡の概観											
初回のガイダンスの後、各単元を2～3回に分けて講義する。											
[履修要件]											
中国古代史について、基本的な知識を身につけていることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
期末レポート（80点）に平常点（授業内での質問・発言 20点）を加味して評価する。レポート採点に当たっては、授業テーマに関連する先行研究を十分に読み込んで書かれたもの、さらにはそこに中国古代社会に関する独自の見解が織り込まれたものを高く評価する。											
[教科書]											
使用しない プリントを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
特に予習は必要としない。授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											